子育ての“ちょっとお願い”に応えます

一時預かり＆ファミサポ

急な用事やリフレッシュしたいとき、送迎のお願いなど、子育てを頑張る皆さんの「少し助けて」に応える仕組みがあります。無理をしない子育てのために、ぜひ活用してください。

こんなときに使えます

- 美容室や病院に行きたい
- リフレッシュしたい
- 体調不良で子どもを見れない
- 冠婚葬祭で預けたい
- 兄弟姉妹の参観日に行きたい

など

ファミリー・サポート・センター事業では保育園、放課後児童クラブ、習い事の送迎、仕事が遅くなる際の預かりにも対応できます。

子育て支援センター 一時預かり

市の委託事業所でお子さんを預かります。

2026年1月から市の委託事業所が社会福祉協議会「保育室ふわふわ」から「吉田保育所」に変わります

［ 2026年1月からの預かり内容 ］

預かり場所	吉田保育所（吉田町吉田1998）
預かり対象	生後6か月～小学校就学前
利用時間	月～金曜日の9:00～17:00（年末年始、祝日除く）
利用者負担	1人1時間300円
申し込み・お問い合わせ	吉田保育所　☎42-0662

ファミリー・サポート・センター

事前にマッチングした、地域の子育てを応援したい人（提供会員）のお宅でお子さんを預かります。

［ 預かり内容 ］

預かり対象	生後6か月～小学校6年生（障害のある児童・生徒は中学校3年生まで）
利用者負担	1人1時間300円～（利用日時、形態で異なります）
申し込み・お問い合わせ	社会福祉協議会　☎47-1131

※一時預かりに関してはP17に掲載しています。
※ご利用には事前登録が必要です。

地域おこし協力隊 新しい隊員が着任しました！

ミッション

里山循環型社会の実現に向けたフィールドでの実践～起業へ

古民家の活用や竹林整備後の竹の活用など、地域資源の可能性を生かし持続的な事業展開につなげていきます。里山地域ならではの日本文化の魅力や日本人の感性を引き出す場所作り、きっかけ作りに取り組みます。

大阪府から移住しました。ワーキングホリデーで滞在したニュージーランドで気付いた日本の魅力を引き出すため“日本がもっと好きになる”をテーマに活動します。神楽や美しい棚田風景など、古き良き文化が残る緑豊かな安芸高田市で、日本人の感性や文化の魅力をより感じられるよう市外・海外をつなぐ橋渡し役を担っていきます！

中川（なかがわ） 優実（ゆうみ）さん

問政策企画課　地方創生推進係　☎・お太助フォン 42-5612

思いを引き継ぐバトンタッチ “事業承継”

＼事業承継の大切さを伝えたい！／

地域おこし協力隊
岡本 康太郎

第5回 お金のこと、後回しにしていませんか？

「売上はそこそこあるんじゃが、もし急に自分が倒れたら…と思うと不安でね――」

そう語るのは、市内で製造業を営む60代の経営者さんです。日々の仕事に追われるなかで、資金繰りや借入、設備投資の整理をつい後回しにしてしまいがち。けれど事業承継を考える上で、“お金のこと”は避けて通れない大きなテーマです。

実際、承継の際に「資金の見通しが立たずに断念した」という事例も少なくありません。逆に、早い段階で金融機関や商工会に相談し、資産や負債を整理しておくことで、負債があってもスムーズに承継が実現したケースもあります。事業承継とは、単なるバトンタッチではなく、次の担い手が安心して走り出せるように“土台を整える作業”でもあるのです。

安芸高田市商工会では、資金計画や経営改善の相談を受け付けています。日本政策金融公庫や信用金庫などの専門機関と連携しながら、承継に必要な資金繰りや制度活用について具体的にサポートが可能です。また、市役所や地域おこし協力隊の私も、補助金や支援制度の情報を共有し、経営者の不安を整理するお手伝いをしています。

「まだ先の話だから」と思っていても、準備を始めるのは早いほど安心です。お金の整理は、未来を見据えた第一歩。地域の支援機関と一緒に、今から少しずつ取り組んでみませんか？

問商工観光課　商工係　☎・お太助フォン 47-4024

地域おこし協力隊を退任 これまでとこれから。

地域おこし協力隊の1人が退任しました。これまでの活動を振り返り、その歩みと挑戦をたどります。

2025年9月退任

藤田京花さん

地域の魅力を伝えながら人の温もりを感じた2年間

市の公式Instagramを運営し、市の魅力を発信してきた藤田さん。地域で活躍する人を紹介する連載『つなぐ』や、地域おこし協力隊広報誌『協力隊ライフ』の記事制作も手掛けました。「実際にやってみると、取材で相手の意図を正しくくみ取り、記事としてまとめることが想像以上に難しかったです」。

また、「たかたん」の魅力発信にも力を入れました。ダンスやチャレンジ動画、他自治体のゆるキャラに会いに行く自治体コラボ企画を開始しました。「動画編集は楽しいけれど、準備が本当に大変。地域の方や市職員の皆さんに支えてもらったおかげで、乗り越えることができたと感謝しています」と振り返ります。就任当初は約800人だったInstagramのフォロワーも、4,000人を突破。イベントや取材先でPRしたりと、地道な活動が実を結びました。

今後は、看護師の資格を生かし、全国を飛び回る“応援ナース”として中山間地域や離島の医療現場を支えるとのこと。「協調性やフットワークの軽さが自分の強み。安芸高田市で出会った人たちや、自然に触れた経験を糧に、これからは医療の現場で地域に貢献していきたいです」。藤田さんの挑戦は、次のステージへと続きます。